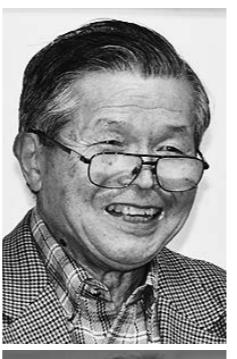


ダイ改阻止・労働総連合建設へ



東京は630人が会場埋める



青年先頭に組織拡大へ

(上) 最高裁決勝利へ決意を語る葉山弁護士、闘争団の各支部長と、労働連帯高崎の塗原副委員長が発言

(下) 動労千葉の幕張、銚子、木更津の各支部長と、労働連帯高崎の塗原副委員長が発言

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

革共同第7回全国大会開く

激動する情勢に立ち
むかう歴史的な大会

革命的共産主義者同盟は1月下旬、歴史的な第7回全国大会を開催し、大恐慌と戦争をアプロレタリア世界革命に転化するための、時代認識の路線ならびに党的組織体制を圧倒的に確立しました。そして、2010年代中期の階級決戦を世界革命の突破口を開く闘いとして、1917年のロシア革命を現代の日本にみがえさせる闘いとして実現することを固く誓い、その実践に猛然と突入しました。

大会では、政治局から基調の第1報告、第2報告と2つの特別報告を受け、白熱した討論が2日間にわたって行われました。基調報告は、世界大恐慌とその戦争への転化・全世界的な革命情勢の成熟という今日の時代認識を全面展開した第1報告と、2001年の第6回大会以降の歩みを総括し、2010年代中期階級決戦の展望と組織的課題を明確にした第2報告です。さらに「階級的労働運動の拠点建設」と、その核心である「労働総連合を全国に」を訴える2つの特別報告が党中央から提起されました。

これを受けて、全国各地から代議員として大会に集結した多くの同志、とりわけその過半数を占める労働者同志が先を争って次つぎと発言に立ちました。労働者同志は、日帝・資本や帝國主義労働運動との職場での激突の中からつかみとった確信や教訓を生き生きと語り、全党に今、どのような飛躍が問われているかを自分自身の決意とともに提起しました。学生の同志は、戦闘的で大衆的な全学連運動を今こそよみがえらせ、戦争・改憲阻止の先頭に立つという決意を表明しました。報告と討論をとおして時代認識と路線が圧倒的に深められ、突破すべき課題が明確にされ、21世紀の現代革命実現に向けて全党が一丸となつて総決起する燃えるような意思一致と団結がかかるところきました。

大会はさらに、①国鉄決戦勝利への決議を筆頭に、②革命的選挙闘争の前進、③「前進」1万人読者網建設と非合法・非公然の党建設、④全学連運動の歴史的爆発、⑤単一の党建設のもとで、全戦線での闘いの前進、⑥星野文昭同志の即時奪還、⑦国際連帯強化の7本の特別決議を満場の拍手で採択しました。そして党中央指導体制を強化し、2015年の決戦へ躍進して躍りこむことを誓いました。

産主義者』第183号にその全文が収録されています。革共同のすべての党员と支持者、「前進」読者のみなさん、がこの「7回大会報告・決定集」を武器として、現代革命への新たな挑戦にともに総決起されることを訴えます。

革命的共産主義運動 の新たな出発点築く

2001年の第6回大会から14年にわたる格闘をへて、今回ついに戦取された第7回大会は、全党的同志の血と汗の苦闘によって闘いとられた革命的共産主義運動の新たな出発点であると言ふことができます。

大恐慌・戦争を世界革命勝利へ 中期階級決戦に本格的に突入

党と階級の不抜の団結かちとろう

第三種郵便物認可
2015年2月23日(月曜日)

革共同の歴史的な第7回全国大会開催の歴史的な第7回全国大会を開催し、大恐慌と戦争をアプロレタリア世界革命に転化するための、時代認識の路線ならびに党的組織体制を圧倒的に確立しました。そして、2010年代中期の階級決戦を世界革命の突破口を開く闘いとして、1917年のロシア革命を現代の日本にみがえせる闘いとして実現することを固く誓い、その実践に猛然と突入しました。

大会では、政治局から基調の第1報告、第2報告と2つの特別報告を受け、白熱した討論が2日間にわたって行われました。基調報告は、世界大恐慌とその戦争への転化・全世界的な革

命情勢の成熟という今日の時代認識を全面展開した第1報告と、2001年の第6回大会以降の歩みを総括し、2010年代中期階級決戦の展望と組織的課題を明確にした第2報告です。さらに「階級的労働運動の拠点建設」と、その核心である「労働総連合を全国に」を訴える2つの特別報告が党中央から提起されました。

これを受けて、全国各地から代議員として大会に集結した多くの同志、とりわけその過半数を占める労働者同志が先を争って次つぎと発言に立ちました。労働者同志は、日帝・資本や帝

國主義労働運動との職場での激突の中からつかみとった確信や教訓を生き生

きと語り、全党に今、どのような飛躍

が問われているかを自分自身の決意と

とともに提起しました。学生の同志は、

戦闘的で大衆的な全学連運動を今こそ

よみがえらせ、戦争・改憲阻止の先頭

に立つという決意を表明しました。報

告と討論をとおして時代認識と路線が

圧倒的に深められ、突破すべき課題が

明確にされ、21世紀の現代革命実現に

向けて全党が一丸となつて総決起す

る燃えるような意思一致と団結がか

かるところきました。

大会はさらに、①国鉄決戦勝利への

決議を筆頭に、②革命的選挙闘争の前

進、③「前進」1万人読者網建設と非

合法・非公然の党建設、④全学連運動

の歴史的爆発、⑤単一の党建設のもと

で、全戦線での闘いの前進、⑥星野文

昭同志の即時奪還、⑦国際連帯強化の7本の特別決議を満場の拍手で採択しました。そして党中央指導体制を強化し、2015年の決戦へ躍進して躍りこむことを誓いました。

大会は第1報告で、この点を革命論として全面的に明らかにしました。

現代革命論を深化し 勝利への路線を提起

革共同の歴史的な第7回全国大会開催の歴史的な第7回全国大会を開催し、大恐慌と戦争をアプロレタリア世界革命に転化するための、時代認識の路線ならびに党的組織体制を圧倒的に確立しました。そして、2010年代中期の階級決戦を世界革命の突破口を開く闘いとして、1917年のロシア革命を現代の日本にみがえせる闘いとして実現することを固く誓い、その実践に猛然と突入しました。

大会では、政治局から基調の第1報告、第2報告と2つの特別報告を受け、白熱した討論が2日間にわたって行われました。基調報告は、世界大恐慌とその戦争への転化・全世界的な革

命情勢の成熟という今日の時代認識を全面展開した第1報告と、2001年の第6回大会以降の歩みを総括し、2010年代中期階級決戦の展望と組織的課題を明確にした第2報告です。さらに「階級的労働運動の拠点建設」と、その核心である「労働総連合を全国に」を訴える2つの特別報告が党中央から提起されました。

これを受けて、全国各地から代議員として大会に集結した多くの同志、とりわけその過半数を占める労働者同志が先を争って次つぎと発言に立ちました。労働者同志は、日帝・資本や帝

國主義労働運動との職場での激突の中からつかみとった確信や教訓を生き生

きと語り、全党に今、どのような飛躍

が問われているかを自分自身の決意と

とともに提起しました。学生の同志は、

戦闘的で大衆的な全学連運動を今こそ

よみがえらせ、戦争・改憲阻止の先頭

に立つという決意を表明しました。報

告と討論をとおして時代認識と路線が

圧倒的に深められ、突破すべき課題が

明確にされ、21世紀の現代革命実現に

向けて全党が一丸となつて総決起す

る燃えるような意思一致と団結がか

かるところきました。

大会はさらに、①国鉄決戦勝利への

決議を筆頭に、②革命的選挙闘争の前

進、③「前進」1万人読者網建設と非

合法・非公然の党建設、④全学連運動

の歴史的爆発、⑤単一の党建設のもと

で、全戦線での闘いの前進、⑥星野文

昭同志の即時奪還、⑦国際連帯強化の7本の特別決議を満場の拍手で採択しました。そして党中央指導体制を強化し、2015年の決戦へ躍進して躍りこむことを誓いました。

大会は第1報告で、この点を革命論として全面的に明らかにしました。

革共同の歴史的な第7回全国大会開催の歴史的な第7回全国大会を開催し、大恐慌と戦争をアプロレタリア世界革命に転化するための、時代認識の路線ならびに党的組織体制を圧倒的に確立しました。そして、2010年代中期の階級決戦を世界革命の突破口を開く闘いとして、1917年のロシア革命を現代の日本にみがえせる闘いとして実現することを固く誓い、その実践に猛然と突入しました。

大会では、政治局から基調の第1報告、第2報告と2つの特別報告を受け、白熱した討論が2日間にわたって行われました。基調報告は、世界大恐慌とその戦争への転化・全世界的な革

命情勢の成熟という今日の時代認識を全面展開した第1報告と、2001年の第6回大会以降の歩みを総括し、2010年代中期階級決戦の展望と組織的課題を明確にした第2報告です。さらに「階級的労働運動の拠点建設」と、その核心である「労働総連合を全国に」を訴える2つの特別報告が党中央から提起されました。

これを受けて、全国各地から代議員として大会に集結した多くの同志、とりわけその過半数を占める労働者同志が先を争って次つぎと発言に立ちました。労働者同志は、日帝・資本や帝

國主義労働運動との職場での激突の中からつかみとった確信や教訓を生き生

きと語り、全党に今、どのような飛躍

が問われているかを自分自身の決意と

とともに提起しました。学生の同志は、

戦闘的で大衆的な全学連運動を今こそ

よみがえらせ、戦争・改憲阻止の先頭

に立つという決意を表明しました。報

告と討論をとおして時代認識と路線が

圧倒的に深められ、突破すべき課題が

明確にされ、21世紀の現代革命実現に

向けて全党が一丸となつて総決起す

る燃えるような意思一致と団結がか

かるところきました。

大会はさらに、①国鉄決戦勝利への

決議を筆頭に、②革命的選挙闘争の前

進、③「前進」1万人読者網建設と非

合法・非公然の党建設、④全学連運動

の歴史的爆発、⑤単一の党建設のもと

で、全戦線での闘いの前進、⑥星野文

昭同志の即時奪還、⑦国際連帯強化の7本の特別決議を満場の拍手で採択しました。そして党中央指導体制を強化し、2015年の決戦へ躍進して躍りこむことを誓いました。

大会は第1報告で、この点を革命論として全面的に明らかにしました。

革共同の歴史的な第7回全国大会開催の歴史的な第7回全国大会を開催し、大恐慌と戦争をアプロレタリア世界革命に転化するための、時代認識の路線ならびに党的組織体制を圧倒的に確立しました。そして、2010年代中期の階級決戦を世界革命の突破口を開く闘いとして、1917年のロシア革命を現代の日本にみがえせる闘いとして実現することを固く誓い、その実践に猛然と突入しました。

大会では、政治局から基調の第1報告、第2報告と2つの特別報告を受け、白熱した討論が2日間にわたって行われました。基調報告は、世界大恐慌とその戦争への転化・全世界的な革

命情勢の成熟という今日の時代認識を全面展開した第1報告と、2001年の第6回大会以降の歩みを総括し、2010年代中期階級決戦の展望と組織的課題を明確にした第2報告です。さらに「階級的労働運動の拠点建設」と、その核心である「労働総連合を全国に」を訴える2つの特別報告が党中央から提起されました。

これを受けて、全国各地から代議員として大会に集結した多くの同志、とりわけその過半数を占める労働者同志が先を争って次つぎと発言に立ちました。労働者同志は、日帝・資本や帝

國主義労働運動との職場での激突の中からつかみとった確信や教訓を生き生

きと語り、全党に今、どのような飛躍

が問われているかを自分自身の決意と

とともに提起しました。学生の同志は、

戦闘的で大衆的な全学連運動を今こそ

よみがえらせ、戦争・改憲阻止の先頭

に立つという決意を表明しました。報

告と討論をとおして時代認識と路線が

圧倒的に深められ、突破すべき課題が

明確にされ、21世紀の現代革命実現に

向けて全党が一丸となつて総決起す

る燃えるような意思一致と団結がか

かるところきました。

大会はさらに、①国鉄決戦勝利への

決議を筆頭に、②革命的選挙闘争の前

進、③「前進」1万人読者網建設と非

合法・非公然の党建設、④全学連運動

の歴史的爆発、⑤単一の党建設のもと

で、全戦線での闘いの前進、⑥星野文

昭同志の即時奪還、⑦国際連帯強化の7本の特別決議を満場の拍手で採択しました。そして党中央指導体制を強化し、2015年の決戦へ躍進して躍りこむことを誓いました。

大会は第1報告で、この点を革命論として全面的に明らかにしました。